



入場無料 毎日 9:30~16:00 月曜休館
 団体見学は予め電話してください。 TEL (521) 8494

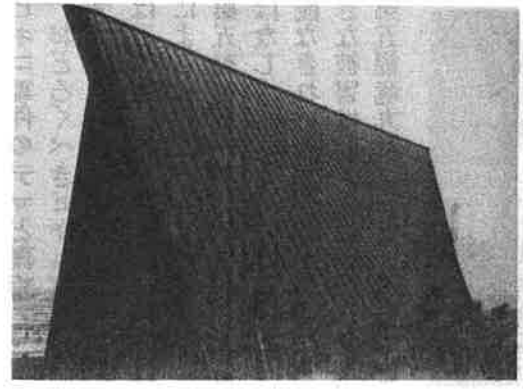
第五福竜丸保存運動の足どり
 ビキニ事件を中心に、核兵器の問題を、系統的に、日常的に、考えてゆくため、広島原爆ドームのように、ビキニ事件の証人・第五福竜丸を永久に保存しようという運動がおこった。
 一九六八年春、第五福竜丸の

なれの果ての「はやぶさ丸」が東京湾の一角で発見されたのがキッカケで、一九六九年四月に美濃部亮吉、中野好夫、壬生照順、畑中政春、森滝市郎、三宅泰雄、松山義夫、鈴木正久らの各界代表が保存をよびかけた。保存委員会の発足以後

六九年七月に、そのよびかけ人を中心に「第五福竜丸保存委員会」が結成され、その後、一進一退ののち、保存委員会が中核に一九七三年十一月二十八日に財団法人・第五福竜丸保存平和協会(会長・三宅泰雄博士)が創立され、委員会は解散した。
 この保存平和協会は、都との数次にわたる折渉の末、第五福竜丸を都に引渡すことを条件に、都は永久保存のための施設を江東区夢の島の公園敷地に建設し、その管理、運営を平和協会に委託することに同意し、保存平和協会は第五福竜丸平和協会と改称し、今日に至っている。
 ともあれ、一九七六年六月十日に第五福竜丸展示館は竣工、開館し、異彩を放っている。
 展示館は去る六月、三周年を迎えたが、来館者数は十二万をこえ、一日平均一五〇名、月平均三六〇〇名となり、都民の間に定着していることがわかる。
 (文責・広田重道)

編 集 後 記

福竜丸だより
 都立・第五福竜丸展示館ニュース
 (財) 第五福竜丸平和協会
 〒136 東京都江東区夢の島3-2
 都立・第五福竜丸展示館内
 電話 (521) 8494



特別臨時号

第五福竜丸展示館について



はじめに
 先日、用事があってK書店の洋書部を訪れた。ついでに学生向きのコーナーをのぞいたら、アメリカ出版の小辞典がたくさん並んでいた。ビキニという項を引いてみた。呆れたことには、どの辞典にも、ビキニはツィ・ピースの女性用不着として出していない。
 帰宅してから調べたら、市中に出まわっている「××用語の基礎知識」なども、水着一点ばかりで、アメリカの直輸入だ。
 大体、ビキニ・スタイルとは強烈な水爆を連想させるショッキングな形ということだったが、もはや、そういう解説さえ無用になったようだ。
 ことしは、ビキニ被災二五周年に当る。二五年といえれば四分の一世紀で、決して短い年月ではない。しかし、ビキニの惨禍が跡かたもなく消え去るほどの歳月ではない筈だ。現に、悪魔の爪跡」といわれるむごい被災の傷跡は、今日なお、なまなましく残っている。消えやらぬ悪魔の爪跡
 一九六八年に、アメリカ政府は、ジョンソン大統領の名で、もはやビキニ環礁には何の危険もないと内外に宣言し、急いでビキニ島を整理し、道路を作り、住宅を建て、旧島民に島に帰るよう呼びかけ、百名をこえるミクロネシア住民が島に渡った。
 ところが、一九七八年春、アメリカ政府はビキニ環礁を再調査した結果、放射能の汚染がひどく、半永久的に人間の住めない土地であると判断し、同年の八月末までに、二四五名のビキニ住民を近くのキーリ島に強制移動させた。まさに、ビキニ島は文字どおり無人島となった。
 これは、ビキニの悲劇がまだ終わっていないことを示していることだが、ビキニを始めミクロネシア住民たち九八〇名が、いままなお放浪の旅をつづけている。だが、少なくともアメリカでは、ビキニは水着としか理解されず、今日なお放射能症に苦しむ、流浪をつづけているミクロネシア住民の現状や、原水爆実験の恐ろしさは、すべて忘れ去られようとしている。
 軽視されているビキニ事件
 広島・長崎の被爆の実相が、国連を舞台に、国際世論の上で、改めて問われているこの頃でも、ビキニ事件は何か避けて通られているかに見える。
 もちろん、世界の原水爆禁止運動をリードしている日本の運動の基盤が、広島・長崎の被爆の実相にあることは、明らかであるが、同時に、その運動が公然の幅ひろい国民運動として燃えあがるキッカケを作ったのは、ビキニ水爆被災事件であった。
 広島・長崎の悲劇を日本の原水爆運動の原点とするなら、ビキニ被災事件は、もうひとつの原点といふべきだ。それが広島・長崎に比べても不明のまま、多くのデマが横行している。



ビキニ事件のデマと真相
 おどろくべきビキニ事件のデマには、たとえば、ビキニ事件は五四年三月一日の一日の水爆による被害で、日本の被爆船は第五福竜丸一隻だけというお伽ばなしから、その水爆は運搬可能なきれいな爆弾だったので大きな被害は起こらなかったとか、第五福竜丸はアメリカの警告を

無視して故意に立入禁止区域に入ったので被害にあったとか、久保山さんの死因はかれが放射能に無知だったためとか、日本医師団の治療ミスによるのかい類である。

こうしたデマを一掃するためにも、ビキニ事件とは何だったのかを明らかにすべきだろう。一九五四年三月一日のブラボ一爆弾にはじまり、五月一四日まで六回にわたる核兵器実験—キヤスル・テストが、マーシャル群島のビキニ環礁を中心にアメリカ海軍によって行われ、太平洋の広い海域、諸島をはじめ、動植物、住民などに、放射能による被害を与えた事件が、いわゆるビキニ事件である。

この事件で、全世界が汚染されたが、とくに、日本では、漁船・第五福竜丸が「死の灰」を浴びて、乗組員三名が全員、急性放射能症におかされ、これをきっかけに太平洋でとれた魚類が汚染されていることが明らかになり、いわゆるマグロ騒動—魚がたべられず、魚市場や魚

屋が休業となり、漁業界のみか国民の台所まで、大恐慌をおこし、忘れられないショックを残している。

最初は、マグロ騒動によってやがては太平洋全域の汚染、放射能の雨—黒い雨などによって、原水爆の恐ろしさを日本国民に知らせ、そこから広島・長崎の原爆被害の実相が改めて浮きぼりにされた。それは日本国民に広島、長崎、ビキニと三たびアメリカの原水爆の被害をうけたことへの驚きと怒りを感じさせ、そこから「原水爆禁止」が日本国民の共通のねがいとして湧きあがり、国民的規模での原水爆禁止運動がまきおこった。

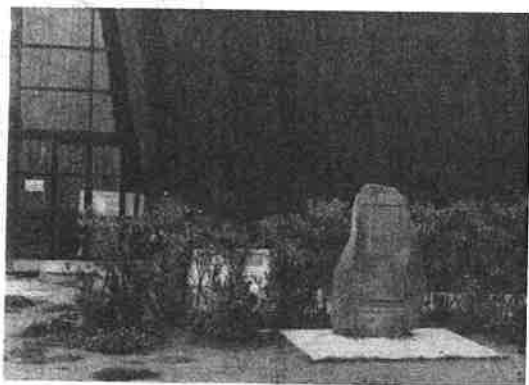
六回にわたる核実験によってビキニ事件で被災した日本船舶は、あの年の十一月末までに、六八三隻、十二月末に八五六隻だったと、日本政府自身が公表している。第五福竜丸はその代表的な一隻だった。

従って、福竜丸被災の原因を危険水域に入ったとか、無知だったとかすることは当たらない。

福竜丸は公海上で操業中に被災したので、無過失であり、久保山さんの死も放射能が原因だ。ビキニ事件の歴史的な位置

広島・長崎の被爆事件がとりあげられるとき、ともするとそれが第二次世界大戦の末期におこった戦争被害であるという歴史的な位置づけが忘れられる。同じように、ビキニ事件が広島、長崎の悲劇にも拘らず激化してきた核軍備競争のなかから引きおこされているという歴史的な位置づけが忘れられがちだ。

第二次世界大戦がなかったら広島、長崎の悲劇は起こらず、広島、長崎でアメリカの原爆の威力が立証されなかったら、一九四六年の第一回ビキニ核実験は起こらず、ソ連とアメリカとの烈しい核兵器開発競争もおこらず、ビキニ事件も決しておこらなかったに違いない。ノー・モア・ビキニの意味
 ノー・モア・ヒロシマ・ナガサキにつづいて、ノー・モア・ビキニと叫ぶとき、それは単なる核兵器の製造、貯蔵、実験、



久保山愛吉氏記念碑

使用をふくむ完全禁止をもとめているのみではなく、核戦争そのものの阻止を意味する。
 その点では、広島、長崎とビキニとは切りはなせない。また、広島、長崎への原爆投下、東京大空襲、第五福竜丸に表徴されるビキニ事件とは、核戦争の問題として、一体のものとして捉えねばならないと思う。
 広島、長崎、ビキニをくり返すためのスローガンには、いま、

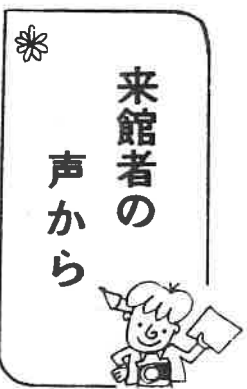
人類の直面している「生存か死滅か」の事態への危機感と、それから抜け出すための人類の決意が示されている。

ビキニ事件で提起された問題
 ビキニ事件の真相をさぐると思わず多くの問題に行き当たる。

第一に、なぜ、アメリカはビキニ事件を強行し、あのような被害をおこしたのかという問題。
 第二に、ビキニ実験をふくめて、一般に核実験といわれているのは、単なる実験ではなくて核戦争のための核軍事演習ではないかという指摘である。
 第三に、ビキニなど核実験場は国連の信託統治領にあり、こうした場所での核実験を行うことは、信託統治の精神をふみにじり、国連憲章違反であるという告発である。

第四に、たとえ信託統治領内とはいえ、公海上に危険水域や立入禁止区域を設けるのは、少なくとも平時国際公法に違反するのではないかという疑義である。

第五に、緊急に追求すべきは核兵器完全禁止の具体的手段。



＊ 来館者の声から
 昨今、かつての太平洋戦争を聖戦であると言う声が聞かれた。したが、日本は再び戦争を起すのではないかと一抹の不安をおぼえる。
 今度起き、原爆、水爆、生物兵器が使用されたなら、かつての広島・長崎、この第五福竜丸の形ではすまされない。この日本が地球上からまっ殺されてしまふ。

日本の再軍備反対
 荒川・深沢
 世界の核兵器反対

広島や長崎にある展示館を見ても、この第五福竜丸が被爆した時の水爆が、広島に投下された原爆よりはるかに大きいことがわかり、驚いています。

もっともっと核兵器の恐ろしさを皆が知ることができるよう協会の方々の努力を期待します。
 木下 陽 25才 男
 数年前、夢の島に来た時に、この船はゴミの中でした。まわりに無数のカモメが飛んでいたのが印象的でした。でも……こんなに立派に保存され、うれしく思いました。後世に残るよう、今後がんばって下さい。
 日本に平和を……

30年前の戦災孤児より我々は、はるばる印旛沼からこの第五福竜丸を見学にやってきました。
 館内のパネルや航海日誌等、そのころの様子が生々しく感じられました。
 科学の進歩が人間に不幸を与えてしまうような気がします。

草下亜麗
 米国がにくい、ひどいと思うのは昔の事です。二度とこの誤ちを繰り返す事のないよう後世に伝えていくのが我々の任務だと思えます。
 無記名